

# 平成23年度 教師海外研修(タンザニア)実践報告書

タイトル	見つめよう世界と自分		
名前	角江 美智子		
学校名	近江八幡市立桐原東小学校		
担当教科	全教科		
実践教科	総合的な学習の時間	時間数	5時間
対象学年	第6学年	対象人数	72名(2学級合同)

## カリキュラム案

### (1) 実践の目的

- ・物事の多様なとらえ方に気づき、価値観を揺さぶる。
- ・世界のいろいろな「あたりまえ」に触れ、自分の生活を振り返れるようにする。
- ・タンザニアの国や人を身近に感じ、異なる人や文化に興味を持てるようにする。

### (2) 授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限目 タンザニアに会おう！ 〈興味を持つ〉	①タンザニアの基本情報を知る。 ②カンガを知り、カンガの言葉から気に入ったものを選び、選んだ理由をグループで交流する。	①現地で撮影した写真 拾った貝など ②カンガ ワークシート
2時限目 タンザニアの学校におじゃまします 〈「ある」を見つける〉	①小学校の教室の写真を見て、感じたことをグループで話し合う。 ②小学校の様子の動画を見て、感じたことを話し合う。見る前と変わったかどうか考える。	①現地で撮影した写真 ワークシート ②現地で撮影した動画
3時限目 タンザニアの子ども達と日本のわたし達 〈価値観を揺さぶる〉	①水をくみに来た子ども達の写真を見てグループで話し合い、全体で交流する。 ②タンザニアや世界の水事情について説明を聞く。	①現地で撮影した写真 ワークシート ②資料映像など
4時限目 オマリさんに会おう！ 〈人と会おう〉	①タンザニアでの生活の紹介を聞く。 ②質問への回答を聞く。 ③ウガリを作っていただき、食べる。	①パワーポイント ③トウモロコシの粉 調理器具
5時限目 世界とつながる「わたし」 〈自分を振り返り考える〉	①自分のいやなところについて、グループでいろいろな見方をしてみる。 ②意見ごとにグループに分かれて、考え方の違いを体感する。	①ワークシート

## 実践授業の詳細

### 1 時限目 「タンザニアと出会う」

〈ねらい〉タンザニアの意外性のある面を紹介して思い込みに気づいたり、カンガやカンガの言葉を通してタンザニアへの興味を持ったりできるようにする。

- ①パワーポイントで地理、有名な物、食文化などの紹介を聞く。クイズ「何を食べたか」「食べる前に手は洗うか」「貝・葉っぱ・砂のうちお土産は？」
- ②自分が気に入ったカンガの言葉とその理由を書く。グループ内で紹介しあう。

カンガセイイン		カンガに書かれた言葉	名前	
①	AHSANTE SANA KWA WEMA KIJONITENDEA あなたが私にくれたお土産に感謝いたします。	②	ACHA USIOTE MTAKA YOTE HUKOSA YOTE 何もかも返さな。すべて失うことになる	
④	MAMBO MAZURI HAYATAKI HARAKA 大事な事をしおけるには、あせっては行けない	⑤	MANYOYA MAZURI SI NDEGE MAZURI きれいな服はあんなにきれいではない。	
⑦	SI MPATAJI APATAJE HASEMI. 何か持っている人、あるいは何かをくちくち切っている人、あるいは何かをからからとしゃべりまわらない。	理由	⑧	VILIMA NA VILIMA HAKUTANI BINADAMU WAKUTANA. 山は山であって人がいる、人は山をあふることができる。
⑨	MSHUKURU MUNGU KWA HILA JAMBO. すべてをあなたに感謝します。	⑩	MSO HILI ANA LILE. 「これ」を持っていない人は「取り」に勝つことはない。	
⑫	KAWIA UFIKE. 寝れても寝言せよ (こわがで、寝たてでも寝言せよが明確しないのはおもしろい、という意味。)	⑬	SI WIZURI KUJISFU DUNIANI HAKUNA BICAMILIFU. 自慢しな。世界には他にない人だから。	
		⑭	NENO JEMA HUBIWA. よい言葉を手をばさば、よい言葉が返ってくる。	
		⑮	KUNAMAKO NOKO KUNUKAKO. かみみも場所こそあふれる場所。	

### 児童の感想

- ぼくは、最初は服とかもないし、手とかも洗わへんのかなーと思いました。けど、映像を見ると、バスとか服とかも着ていたのでびっくりしました。
- タンザニアはあまり知らなくて、砂漠のイメージがありました。しかし、都会やハワイみたいなものがあり、おどろきました。カンガの意味はよくて、心が打たれました。
- ことわざ、カンガにかいてあるもの、「かがみ込む場所こそ立ち上がる場所」、これはとてもふかい！と思いました。思わずメモしてしまいました。
- 服は、ハデだけど、一つひとつに文字が書かれていて、私ならお祝いの時とかには「おめでとう」がいいかなーと思いました。

### 2 時限目 「タンザニアの学校におじゃまします」

〈ねらい〉写真からは、違いや「ない」ものが目につくが、動画のいきいきした姿に触れることで自分たちと似ているところや「ある」ものに気づけるようにする。

- ①グループで、右の写真をから気づいたことを書き出す。その後意見を全体で交流する。  
〈反応〉屋根が無い、時計が無い、蛍光灯が無い。みんな髪が短いから、男の子ばかり？ 3人で一つの机を使っている。など
- ②現地で撮影した映像を見る。



【映像1 全校児童が整列する様子】



【映像2 算数の授業風景】



【映像3 体育の授業風景】



## 児童の感想

- 学校の子どもの様子を見てみると、6-1とまったく同じで、まるで自分達を見ているように感じた。
- やっぱり、どこの国の子どももいっしょでした。おしゃべりするのも、けんかすることもいっしょでした。でも、3人で一つのいすやつくえを使うのは、私はいやです。
- 授業中も、後ろ向いている人がいたりちょっとしゃべったり、リレーの人達がキャーキャー言ったり、ちょっと並ぶときざわざわしていたり、最初は使いにくい、ない、ばかりだったけど、たいして日本、タンザニアの子ども達は変わらないと思いました。
- タンザニアの教室には、電気もまどガラスもなく、時計もなかったのも、雨の日など、暗くなったときどうしているのか気になりました。私は日本の学校のほうが好きです。
- タンザニアの小学校は、全員ボウズだった。テンションがMAXだった。大きい声だった。先生の話をよく聞いていた。
- あまりお金持ちではないから必死に勉強している姿がすごいなと思いました。
- タンザニアの学校は、日本よりはきれいではないけれど、授業中はとっても静かだったので、大人になったらきっと偉い人になっていると思います。
- ぼくたちとちがって、タンザニアの子どもたちは、勉強をまじめにうけて、発表をはずかしがらずにやっているのがすごいと思いました。ぼくもそれを見習いたいです。

### 3時限目 「タンザニアの子ども達とわたし達」

〈ねらい〉 水に関する「せいで」「おかげで」という問いを通して、「ない」ことは不便、不幸ととらえがちな価値観を揺さぶる。

- ① 「わたし達はじゃ口をひねれば水が出る」「写真の子たちは、水は井戸や川にくみに行く」のそれぞれ対して長所と短所をグループで話し合い、「そのおかげで」「そのせいで」に続く言葉を書く。後で全体で交流する。

タンザニア授業第3回 タンザニアの子と水、わたしたちと水		メンバー
わたしたちは、水はじゃ口をひねれば出てくる。		写真の子たちは、水は井戸や川にくみに行く。
A. そのおかげで		B. そのせいで
・		・
・		・
・		・
・		・
		
でも、もしかすると…		でも、もしかすると…
C.		D.
・		・
・		・
・		・
・		・

〈反応〉

わたしたちは水はじゃ口をひねれば出る  
**「そのせいで」**

出なくなったらパニック。無駄遣いする。  
 水のありがたみを忘れる。体力がない。水道代がかかる。など

写真の子たちは、水は井戸や川にくみに行く  
**「そのおかげで」**

水くみをしながら新しい友達ができる。体力がつく。お手伝いができる。水を大切に  
 する。水がタダ。など

②衛生面の問題や、世界の水事情について説明を聞く。

**児童の感想**

- アフリカは水が少ないことは知っていたけれど、あんなに白にごった水を飲んでいることにびっくりしました。
- じゃ口をひねれば水が出るのがいままでふつうだと思っていたけれど、そうでないことが分かった。
- 私たちは毎日ふつうに、何も考えずに飲んでいる水でも、おこうの人たちにとっては飲むのにも制限があるし、いつなくなるか考えて飲んでいると思う。日本は、とてもぜいたくだなあと思いました。
- 日本とタンザニアのあたりまえがとても違うことにおどろきました。タンザニアの水不足の原因がもしかしたら日本に有るかもしれないと思いました。
- タンザニアの人たちは、毎日毎日苦労しているけど、自分は学校から帰ってねころんでテレビをみているだけなのでなんだかとてもかわいそうに思った。今までを振り返ると、とても水をそまつに使っていたと思う。
- 私達は、水がじゃ口から出るのが当たり前で、水のことを知らないなんてかわいそうと思われるかもしれないと思いました。
- タンザニアの人達は、あんなきたない水を飲んでいるとは予想外だったし、きたない水を飲んで病気になるのはいやだと思いました。



**4時限目 オマリさんに出会おう！**

〈ねらい〉タンザニアの方に出会い、その人の魅力に触れることを通して、人と人の出会いは文化や外見の違いを超えて楽しいことであると体験する。

オマリさんのタンザニアでの生活の様子や、特技のティンガティンガアートなどの紹介を聞く。

- ①児童から出た、生活や文化、日本に来て感じたことなどについての質問を伝えておき、当日答えていただいた。児童は、答えの予想を立てて聞いた。
- ②タンザニアの主食「ウガリ」をその場で調理していただいて、カレーにつけて全員で一口ずつ食べる。



**児童の感想**

- ウガリは、最初はタンザニアの料理だから食べたくないかったけれど、食べたらとてもおいしかったです。



- ・オマリさんがつくってくれたウガリは、おいしかったけれど初めて食べるものだったので口にウガリを入れるのは勇気がいった。食感はふつうだったのでよかった。もっとタンザニアの食文化を知りたいと思った。
- ・オマリさんに、「タンザニアで不便なことは？」と聞いたとき「ありません。」と言ったのにおどろきました。なぜなら、日本では水くみにいかななくても水も飲めるし、たくさん違うところがあるのに、なぜ不便じゃないのだろうと思ったからです。
- ・今まで、タンザニアの勉強をした中で、一番あっ！こういう国なんだ！と思えた時間でした。まず、オマリさんに質問してみて、たぶんタンザニアの人は、穏やかなのだなあと思います。私が最後流行のものを聞くと、流行という言葉が分からないのに最後まできちんと対応してくれたので、穏やかで良い人だとさらに思いました。

## 5 時限目 世界とつながる「わたし」

〈ねらい〉 広い世界も、始まりは自分や身の回りの人達。とらえ方次第で自分の短所が長所になることや、人の感じ方は多様であることを体験して楽しむ。

- ①自分の「ちょっといやなところ」を書き、他の子がそれに対して肯定的な見方を書く。  
グループでお互いに書きあう。

〈反応〉

「はっきり言えない」

→人を傷つけない。

いろいろ考えてる。

「すぐちょっかい出す」

→友達がすき。親切。

「人見知り」

→信頼される。信用できる。

- ②問いに対し、三つの選択肢から選んで答えごとに集まる。その後、各意見を聞く。

〈反応〉

「世界の問題」について

「それどころじゃない」を選んだ児童→「大人がすることだと思う。」

「何かできるはず」を選んだ児童→「電車とかに乗ったらいいと思う（省エネ）。」

**世界とつながる「わたし」** 名前

(1) わたしのちょっといやなところ

	(よ)
	(よ)
	(よ)

(2) わたしはこう思う！

① 次のうちで一番幸せと感じるのは

A ごはんがおいしいとき  
B 朝起きたらまだ早く、もう一回寝られるとき  
C おフロの湯がぬるくなったとき

② 次のうちで一番嫌が立つのは

A 物を買ったのに、だまってそのへんに置いて返されたとき  
B 足をふんだことを気づいているくせに、あやまってくれないとき  
C テレビ番組の、いい場面のときに話しかけられたとき

③ 次のうちで一番怒くなるのは

A 気づいたら、くつ下が左右逆だったとき  
B ダジャレを言ったのに、だれも気づいてくれないとき  
C がんばって針ドをしたのに、するページがちがっていたとき

④ 世界の問題（水問題、環境問題、戦争・テロ、食糧…）についてどう思う？

A 大問題！わたしも何かになれるはず！  
B 気にはなるけどよく分からん、わたしに何ができるの？  
C 正確、それどころじゃない！

※正解や、「こう書いてほしい」答えはありません！あなたの思うとおり書いてください

## 児童の感想

- ・（3時限目の感想を聞いて）「水のことを知らないなんてかわいそうと思われるかもしれない」と聞いて、すこしだけゾクッときました。
- ・わたしのちょっといやなところも、でも実は…と考えると、それでもいいかもしれないなあと思いました。



- 私は、世界のことはよく分からんし、とっていたけど、自分ですすんで勉強したらよかった…と思いました。
- 自分の考え方と違う別の考えをする人がたくさんいるんだなあと思いました。一つの視点からばかり見るのではなく、他の視点からいろいろな物を見ていきたくなりました。
- 遠く離れたところのタンザニアと日本がつながっていることにすごくおどろいた。
- 私は世界について、前までは遠い国で不便な暮らしをしていてかわいそう…としか思っていなく、うっすらおぼえているだけ…。でもまず、身近な人の気持ちから考えてみて、かわいそう…ではなく「ここがすごい!!」けど、「ここが不足してるんだ!!」だから、私にできるのは?」と考えられるようになった回でした。

### 全5回を通しての児童の感想

- いろいろな国では「あたりまえ」がちがうんだな…と思いました。タンザニアの人達は、水をくみにいったりすることがあたりまえで、日本はそのことにいろいろな疑問だらけだと思います。絶対めんどくさいし、つかれるし…でも、友達ができるから、ないものはいろいろあるけど、あるものもいっぱいあるってことも知りました。
- タンザニアの学習を通して水の大切さがよくわかった。分かったからには水を粗末に扱わないように気をつけようと思う。
- ぼくは、最初タンザニアのことなんてどうでもよかったけれど、だんだんやっていくうちに、楽しくなって、タンザニアより日本が格上やと思ってたら、タンザニアのほうがよかったりして、勉強してよかったな…と思いました。
- 次は、私がみんなにタンザニアのことを教えたいです。
- タンザニアの勉強5回目を終えて、一つ考えてみたことがあります。それは、私が世界の人々にできること、私は今まで深く考えたことがなかったけど、まずは調べてみることからはじめてみようと思います。

### 実践授業を通しての所感・反省と今後の展望

「水くみのおかげで」は、乱暴な問いです。しかし、研修を通して、誰もが自分たちの「あたりまえ」の中で精一杯生きていて、物が無いことを哀れと決め付ける自分の価値観が貧しいと感じました。世界にはいろんな「あたりまえ」があり、物事は多様なとらえ方できることを児童にも気づいてほしいと思いました。途中で世界や日本の水に関わる問題を示して思考を揺さぶれば、より深い話し合いにつながるだろうと思います。

「世界の問題」について、多くの子が「それどころじゃない」を選びました。小学生には、目の前の勉強や友達に力一杯向き合うことこそが大切です。でも、世界には魅力的な文化を持つ人がたくさんいて、物事はいろいろなとらえ方ができると知っていれば、困っている人のことを知ったときに、行動する原動力になると思います。それは、「格上」日本からの援助ではなく、互いに尊重しあった上での支援や協力になるのではないのでしょうか。



水をくみに来ていた子ども達と

カンガの言葉      スワヒリ語教室 <http://www.etsumi.jp/darasa/kanga/misemo/misemo.html>  
 ポレポレオフィス <http://www.polepoleoffice.com/index.html>  
 アフリカフェ <http://www.africafe.jp/kotowaza.html>

より引用